

京城日報

刊夕日一
本紙は毎朝五時發行
定価 一月三圓 三月九圓 半年一五圓 一年二八圓
廣告料 別表参照
印刷所 京城日報社
發行所 京城日報社
電話 二二二二

●英國下院と募兵問題

内閣再び窮境に陥る
英國下院は其の議決案を提出した。募兵問題は一時の窮境に陥る。内閣は其の議決案を提出した。募兵問題は一時の窮境に陥る。内閣は其の議決案を提出した。募兵問題は一時の窮境に陥る。

●降伏原因

露大使下関發
タウシエイン下関發
降伏原因は、露大使下関發。タウシエイン下関發。降伏原因は、露大使下関發。タウシエイン下関發。

●ダブリン工場

製造工場は政府方の爲嚴重に包圍さるるに至り
製造工場は政府方の爲嚴重に包圍さるるに至り。製造工場は政府方の爲嚴重に包圍さるるに至り。製造工場は政府方の爲嚴重に包圍さるるに至り。

●南方倍々強硬

南方軍は其の強硬さを倍々強硬に
南方軍は其の強硬さを倍々強硬に。南方軍は其の強硬さを倍々強硬に。南方軍は其の強硬さを倍々強硬に。

●陸軍停年短縮

陸軍停年短縮は、陸軍停年短縮。陸軍停年短縮は、陸軍停年短縮。陸軍停年短縮は、陸軍停年短縮。

●委員總督訪問

東清鐵道に委員總督訪問
東清鐵道に委員總督訪問。東清鐵道に委員總督訪問。東清鐵道に委員總督訪問。

●寺内總督臨場

寺内總督は、寺内總督。寺内總督は、寺内總督。寺内總督は、寺内總督。

●聯絡會議

聯絡會議は、聯絡會議。聯絡會議は、聯絡會議。聯絡會議は、聯絡會議。

●石原次官入京

石原次官は、石原次官。石原次官は、石原次官。石原次官は、石原次官。

●鐵道長官催宴

鐵道長官は、鐵道長官。鐵道長官は、鐵道長官。鐵道長官は、鐵道長官。

●小松原氏招待

小松原氏は、小松原氏。小松原氏は、小松原氏。小松原氏は、小松原氏。

●等置艦解纜期

等置艦は、等置艦。等置艦は、等置艦。等置艦は、等置艦。

●等置艦長入京

等置艦長は、等置艦長。等置艦長は、等置艦長。等置艦長は、等置艦長。

●櫻井艦長招待會

櫻井艦長は、櫻井艦長。櫻井艦長は、櫻井艦長。櫻井艦長は、櫻井艦長。

●正銀頭取出發

正銀頭は、正銀頭。正銀頭は、正銀頭。正銀頭は、正銀頭。

●東拓決算

東拓は、東拓。東拓は、東拓。東拓は、東拓。

●阪谷男招待會

阪谷男は、阪谷男。阪谷男は、阪谷男。阪谷男は、阪谷男。

●米國觀光團出發

米國觀光團は、米國觀光團。米國觀光團は、米國觀光團。米國觀光團は、米國觀光團。

●府尹郡守打合せ會

府尹郡守は、府尹郡守。府尹郡守は、府尹郡守。府尹郡守は、府尹郡守。

●貴族の記念植樹

貴族は、貴族。貴族は、貴族。貴族は、貴族。

●實業專修學校

實業專修學校は、實業專修學校。實業專修學校は、實業專修學校。實業專修學校は、實業專修學校。

●櫻丸の初航

櫻丸は、櫻丸。櫻丸は、櫻丸。櫻丸は、櫻丸。

●東拓の招待會

東拓は、東拓。東拓は、東拓。東拓は、東拓。

●共進會延期

共進會は、共進會。共進會は、共進會。共進會は、共進會。

●成鐵線工事進捗

成鐵線は、成鐵線。成鐵線は、成鐵線。成鐵線は、成鐵線。

●山元

山元は、山元。山元は、山元。山元は、山元。

●浦南鎮

浦南鎮は、浦南鎮。浦南鎮は、浦南鎮。浦南鎮は、浦南鎮。

●忠州

忠州は、忠州。忠州は、忠州。忠州は、忠州。

●邱大

邱大は、邱大。邱大は、邱大。邱大は、邱大。

●米墨將軍の會見

米墨將軍は、米墨將軍。米墨將軍は、米墨將軍。米墨將軍は、米墨將軍。

●ダブリン暴徒の掠奪甚し

ダブリン暴徒は、ダブリン暴徒。ダブリン暴徒は、ダブリン暴徒。ダブリン暴徒は、ダブリン暴徒。

●ウ將軍テ州に現れる

ウ將軍は、ウ將軍。ウ將軍は、ウ將軍。ウ將軍は、ウ將軍。

●露銀貨の發送

露銀貨は、露銀貨。露銀貨は、露銀貨。露銀貨は、露銀貨。

●淺間修理進捗

淺間は、淺間。淺間は、淺間。淺間は、淺間。

●鐵板倍々騰貴

鐵板は、鐵板。鐵板は、鐵板。鐵板は、鐵板。

激戰の前兆乎！獨軍最後の努力

西方に於て攻撃を執りたるも自己の

オラスの附近

發表の筈なる

賀會は一日

郎 方徳藏 福田雅太郎 高橋
 小池安之 山梨半造の六名に

て福田少將は參謀福成の結果本
に轉ずべく高橋少將以外の新少將
洗れも現職に留る由而して參謀本

文武官叙位

南無阿弥陀仏

結果其盡力方を仁川商業會

會社を設立すべき事は先般來

見)

入り、いり
祭的さいてきと指導するを最さい

て極めて適し居れるを看るに
す然も予の一瞥する所を以て
其の農法は極めて幼稚なる疎

依れるもの、如く之れを集約
作し、施肥種子、農具等を改善せ

品供給等の爲め正貨の敷増を

三十三
二五

李圭完 咸興中應

を候とす万も何分朝魚は天水

大磯道の登峯事業

四、繁殖數四千九百九十にして
蜜の量は二百七十八と

百十四萬の反歩に上つてゐる。前産額約十萬貫の豫定なり。同於ける黃色種の耕作熱は著し

し來り本年の如きは耕作希望
對して漸く三分二を許可し殘
れを許可する能はざる狀況な

出席者は古海總長

直と金帶子澤に隔つ著け

益々悪くなつた相な▲鳥渡其
人の氣質が閃いて居るから面
▲臺灣共進會が忠臣蔵の芝居

て忠義の獎勵をしようとした
良邸打入りで首を越たり泉岳

の道徳
浮田和良 本町

年雖不開成功之幸福希人

七

と吾人の希望

●國家自給策と殖民地……富海
●米國の排日案
●毛髪の人類學……久武醫

商店

懲役五箇月以下罰金

10

[illegible]

.....

1. *Journal of the American Medical Association*, 1978; 239: 1000-1001.

1000

場保合
 時大入城御入帳に
 出大入城御入帳に
 ありて、乃て風聲を
 四條山に、乃て石を
 書を見、人々企て
 所ありしも、今に
 治町二丁目を徘徊
 坐り込み辻占の押
 宅にて現金賭けの
 則に就き一日午後
 新町遊樂場其他の
 新町遊樂場其他の
 新町遊樂場其他の

須藤南翠作

—

A black and white woodblock print illustration of a samurai warrior, likely a daimyo, seated and holding a sword. He is wearing traditional armor (yoroi) and a helmet (kabuto). The background is simple, with a fence or barrier visible on the left.

心の震るべき身でもない。爾ぢや死なう。舍弟千之助(忠政)に家跡相違なく継せらるゝやう、願書一通認め置かば、何人か執し申して、森が家は立てられるであらう。爾うぢや願書の認めやうね」と、長可は始めて膝を起した。

鏡像より陣中の矢立を取り出して懐紙を伸しながら筆を染めて手短かに書き記めた家督相続の願書を「意を決まして」

「茲に通するわ。此れでよい」と、手早くさらりと巻き納めた。


山吹
浦子
南

日報俳壇 學子部

[illegible]

報
及辭令
朝鮮
投稿
販賣
廣告
○○○○

統計法令及通牒の判決例
新語の研究
を歓迎す
東京神田巖松堂 朝鮮各
店
料 一頁十圓 取扱店



新庄通譯官
限毎月十日
地の書店に販賣す
京城ウツボヤ書籍店

[illegible][illegible]

井戸堀の九丈櫓春雨に立てる
春雨の埤頭船見へる子を送り
春雨の集ひ古董を展へ脱けり
渡り廊下春雨を穿ぬ袖に水玉
春雨の裏街を消え月半迷へり
春雨の窓隙の消え管長へ引り
古瓦割れを春雨の烟に據たり
笛鳴りへ春雨の露中春雨せり
山に雲垂れて苗床に春船せり
農技師笠空に春雨の里を巡る

■バゴだ俳狂寄句
マコガバは蘭堂公の諷刺
かるに如かず 青々園

花の筵模糊たるや詞堂の塔
炊城の酒舞わねる花見かな 欣堂

▲生物哲學 著者土田孝吾氏自序
如く内容著者土田孝吾氏自序に而して其大要を
述ぶるに著者の現生哲學と稱するを以て其大要を
述ぶるに著者の現生哲學と稱するを以て其大要を

撞球界の泰斗 王乃一


撞球

玉突の理論

初學者の爲に

「東京朝日」評 我が撞球のなき點に於て斯界のなれば本邦撞球者の爲に

虎の巻
 技倆の卓抜並ぶもの
 の最も統一せる述作
 (推薦すべき者なり)



製三百餘頁
 一ス美裝函入

定價壹圓五錢
 郵稅金十錢

[illegible]

仁洲米豆取引所

一日係橋大阪引止 四圓八十錢 落寄末着當地
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

物價
 六六
 八八
 九九
 一〇〇
 一〇一
 一〇二
 一〇三
 一〇四
 一〇五
 一〇六
 一〇七
 一〇八
 一〇九
 一一〇
 一一一
 一一二
 一一三
 一一四
 一一五
 一一六
 一一七
 一一八
 一一九
 一二〇
 一二一
 一二二
 一二三
 一二四
 一二五
 一二六
 一二七
 一二八
 一二九
 一三〇
 一三一
 一三二
 一三三
 一三四
 一三五
 一三六
 一三七
 一三八
 一三九
 一四〇
 一四一
 一四二
 一四三
 一四四
 一四五
 一四六
 一四七
 一四八
 一四九
 一五〇
 一五一
 一五二
 一五三
 一五四
 一五五
 一五六
 一五七
 一五八
 一五九
 一六〇
 一六一
 一六二
 一六三
 一六四
 一六五
 一六六
 一六七
 一六八
 一六九
 一七〇
 一七一
 一七二
 一七三
 一七四
 一七五
 一七六
 一七七
 一七八
 一七九
 一八〇
 一八一
 一八二
 一八三
 一八四
 一八五
 一八六
 一八七
 一八八
 一八九
 一九〇
 一九一
 一九二
 一九三
 一九四
 一九五
 一九六
 一九七
 一九八
 一九九
 二〇〇

發賣所

振替屋
京橋大

主に朝より氣を飽ふて來るも附口安く一時
値より三、四錢及び四十文安易常の附口なる
餘りの安位に賣り居座へとなり天候の見利不
共に前塵一向挫き數かちらず倭然見送り味無
き上は二、三度と下りたり

鍋
塩
燗

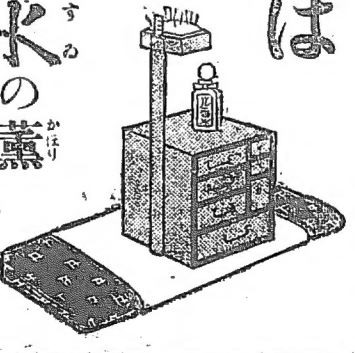
月限 一萬二百五十石
江名物の白魚 群山名物として
れたる錦江の白魚は本年は電候
雨期 示し

大田電報 二六〇七番
 京城大阪 河村運壺情
 されたり
 又取りは狐鼠泥 京坂西大田町
 上森秀譯(註) 廿四月十一日

正春生新生滋養生福生樂生世動犯慈女佐天四怪少多名快自

錢拾五圓壹價定

切 意注御 其御上 不宮



大口

[illegible]

五〇	元山西湖 新瓦 候津、南津行	日發十時出帆
四〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
三〇	小倉丸	日發十時出帆
二〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
一〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
九〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
八〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
七〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
六〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
五〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
四〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
三〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
二〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆
一〇	元山 候津、而遷行	日發十時出帆

[illegible]

日本郵船出帆

大連 太谷 牛莊行

五月五日 正午出帆

五月五日 正午出帆

大邱出張所

電話 二七番

大邱農務自動車部

電話 二七番

大邱浦項間自動車時間

電話 二七番

金泉總店自動車支部

電話 二七番

大連 太谷 牛莊行

五月五日 正午出帆

大邱出張所

電話 二七番

大邱農務自動車部

電話 二七番

大邱浦項間自動車時間

電話 二七番

金泉總店自動車支部

電話 二七番

大連 太谷 牛莊行

五月五日 正午出帆

大邱出張所

電話 二七番

大邱農務自動車部

電話 二七番

大邱浦項間自動車時間

電話 二七番

金泉總店自動車支部

電話 二七番

[illegible][illegible]